

### 子どもの本だな 76

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### たんじょうび ハンス・フィッシャー ぶん・え

おおつか ゆうぞう やく (福音館書店)

リゼッテおばあちゃんと犬のベロ、猫のマウリ、ルリは、森のそばの家に住んでいます。野原には、おばあちゃんのかっているうさぎややぎなど、ほかの動物もたくさんいます。

今日はリゼッテおばあちゃんの 76 歳の誕生日。おばあちゃんが村へ買い物に出かけると、動物たちはベロの「いい思いつき」の準備を始めました。マウリとルリはケーキを焼き、うさぎたちはろうそくを 76 本買いに行き、めんどりたちはたまごを 36 個産みました。夕方、おばあちゃんが帰ってきてドアをあけると、「おたんじょうび おめでとう！」と動物たちが迎えました。お祝いのおと、屋根裏に隠してあったマウリとルリからの素敵なお祝い物に、おばあちゃんは大喜びしました。

大騒ぎしながら一生懸命お祝いの準備する動物たちが、躍動感ある軽やかな線で生き生きと描かれています。続編に『こねこのぴっち』があります。読んでもらえば 4 歳から。(池之上)

#### スカラブ号の夏休み ランサム・サーガ11

アーサー・ランサム 作 神宮 輝夫 訳 (岩波書店)

大人が出かけて子どもだけになった家で、ナンシイとペギイ姉妹は、ディック、ドロシア姉弟と楽しい夏休みを過ごすつもりでした。帆走、虫取り、鳥のリスト作りなど、することは山ほどあります。ディックとドロシアも、自分たちの帆船「スカラブ号」の完成を心待ちにしていました。ところが、しつけの厳しい大お婆さんが突然訪ねてきて、ナンシイとペギイはお嬢様を演じ、ディックとドロシアは森の小屋に隠れ住むことになります。そこでディックとドロシアは、ウサギを捕って調理したり、ナンシイ達の家へ忍び込んだりします。

大お婆さんに隠れて何とか「スカラブ号」の進水にこぎ着けますが、泥棒騒ぎや失踪事件が次々と起こり、大人達を巻き込んだ大騒ぎになります。子ども達が大お婆さんの目をかいくぐり、奮闘する様子がユーモラスに描かれています。11 歳位から。(光藤)

2月	3月	2・3月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
6日	12日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
13日	19日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
20日	26日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

#### <お知らせ>

#### えほん・おはなし

#### スタンプラリー



絵本やおはなしの本を読んで問題に答えよう！全部解けたら、スタンプカードに1つスタンプを押します。カードをたくさん集めたらプレゼントがもらえるよ！

◎対象：小学4年生まで

◎期間：6月28日(月)まで

(プレゼント引換は7月30日まで)



# 『 洞窟壁画を旅して ヒトの絵画の四万年 』 布施 英利 著

論創社 251頁 2018年9月刊 2,400円 (請求記号) 723

洞窟壁画というと、ラスコー洞窟やアルタミラ洞窟が思い浮かぶが、1994年にフランスで発見された「ショーヴェ洞窟」の壁画は、約3万6千年前に描かれた世界最古の絵画と考えられている。本書は、美術評論家で解剖学者でもある著者が、大学院生の息子と共に、何万年も昔の古い壁画を訪ねた旅の記録である。

著者は、前述のショーヴェ洞窟に近づいたとき、その風景自体の中に崇高さを感じた。古墳や神殿などの聖地が小高いところにあるのと同様に「壁画を描いたクロマニヨン人は、おそらくこの風景も、あえて『選んだ』のだろう」という。洞窟内の壁画も、高度な芸術性と技術力を感じさせる。自然の凹凸をうまく利用し、壁から肩が盛り上がりつつあるような立体感あるクマ、岩のひびわれの線を使っただ今にも動き出しそうなクマとヤギ。絵の保存のために一般公開は発見後すぐに禁止され、現在は最新技術を使ったレプリカの洞窟で展示されている。

旅のもうひとつのメインであるラスコー洞窟は、1940年に発見された。保存のために一般公開・見学が禁止になった後、1983年にラスコー2というレプリカが完成、2015年には移動式のラスコー3、2016年からは洞窟空間そのままに鑑賞できるラスコー4が公開された。今回の旅では2と4を見比べ、2の方が絵としてのコントラストが強く、感動すると著者はいう。「牡牛の広間」の4頭の牛は、絵というより「動物の存在そのもの」であり、形、線、空間、動き、そういう魅力に加え、色彩の華やかさにも心打たれ、「ラスコー2で見た牡牛の広間は圧巻だった」と語っている。

この素晴らしい絵を描いたのは、旧石器時代後期の人類であるクロマニヨン人。現在の人類の祖先である。それ以前のネアンデルタール人は、石器を作り、火を使用し、手は器用で脳も大きかったにもかかわらず、絵は描けなかった。それは言葉を持たなかったから。言葉とは、その場にはないものをイメージする想像力とも言え換えられる。狩りで出会った力強い動物を、壁に絵としてよみがえらせた大昔の人たちの姿を想像しながら、現在の私たちと「想像力」でつながっていることを嬉しく思う。

(池田)

## 2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	×	5	6	7	8
9	10	×	×	13	14	15
16	17	×	19	20	21	22
23	24	×	×	27	28	29

## 3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	×	4	5	6	7
8	9	×	11	12	13	14
15	16	×	18	19	20	21
22	×	×	25	26	27	28
29	30	×				

毎週土曜日に

「おはなしの時間」を開いています。

- ・ 4歳～2年生 11:00～
- ・ 3年生～中3 11:30～

2月のおはなしは、「鳥のみじい」「ゆきんこ」「だめといわれてひっこむな」などを予定しています。詳しくはプログラムをご覧ください。

\*カレンダーの×印は休館日

\*  は館内整理日、返却のみ受付(10:00～17:00)

\* 開館時間は10:00～18:00  
金曜日は20:00まで開館

## 地下水

忙しいのと目が悪くなり絵本を読みづらくなったと、先輩司書から家の近くの子ども園、保育所への訪問を昨年4月に引き継いだ。

子ども園には事前に見学に来て行ってもらった。大きな遊戯室に縦長にマットが敷かれ、50人ほどの子どもが座っている。そして先生がずらり。やりにくそうとひるんでしまった。隔月で年6回という回数も、子どもたちの顔を覚えられないまま終わるような気がして、不安だった。

「今年度は教室に場所を変えました」という園長先生の言葉に喜んだものの、教室にぎつちり詰まった子どもたちに、やっぱりやりにくいと感じた。カーテンを引き、ろうそくの明かりだけでは、後方の子どもの顔にまで目が届かない。それでも、『もりのなか』を読めば「夢やったんや」、「けしつぶクッキー」を語れば、昼寝の嫌いな主人公に親近感をもったのか笑いもれ、こちらにも楽しくなる。「ぼく、えびは嫌いやけどしっぽは食べるんや」「今日はな、小学校に行ってきたんや」といっような声が聞こえてくる。

先日、5回目の訪問を終え、「あと1回か」とほっとしつつ寂しさも感じた。顔は見えなくても、無邪気に接してくれる子どもたちは馴染みもなく不安だった私をしつかり支えてくれている。

(竹内)

